

「庄内川の川面に存在するコンクリート塊」の謎

今に残される無用の遺物

前回コラムNo.5において「庄内川の川面に存在する杭柱」(旧松河戸橋)の謎についてみてみましたが、他にも庄内川面において気になる場所がありました。

庄内川を下っていくと、中央線橋梁の西下にコンクリートの塊の様なものが多数並んでいます。

この場所は長塚町ですが、松河戸町の境界線から150mの距離にあります。(図1)(図2)

河川事務所に確認してみると、現在の橋梁は昭和41年の複線電化に伴い架設され、これは旧橋梁跡の土台

で、現在の橋梁の橋脚下の床土が流出しないように残したとの事でした。

しかし、現在では土留めの役を果たしているようには思えず、川の流れを邪魔しているようにしか見えません。

この様な状態に至った経緯や旧鉄道橋の架設にまつわるエピソードについて紹介します。



(図1) 複線化前の橋梁跡
左に見える現在の中央線橋梁下流下の床止めを利用したとのこと



(図2) 松河戸の境界との位置関係
松河戸の境界から西側200mにある。

旧庄内川橋梁工事 明治29年11月～31年5月

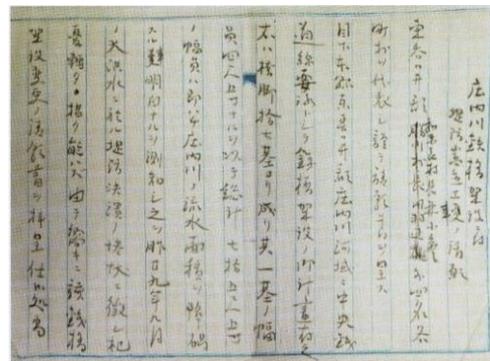
明治33年7月の中央線開業に向けて、庄内川橋梁工事も明治29年11月から始まります。橋梁の長さは240mで、かなりの大工事となることから、愛岐トンネル工事の場合と同様に早くから着工されました。

この工事に対して、「勝川町役場緊要雑書綴」に工事の変更の請願書が残されています。(図3)

小野村(松河戸、下条、下津、中切)、和爾良村ら4村から明治30年3月に出されたもので、内容を要約すると「庄内川の橋脚庄内川の橋脚は、総計17基で幅が1基四尺五寸で計画されており、合計すると七十五寸(23m)になり、庄内川の流れに障害となるので、昨年の明治29年9月の洪水では堤防が決壊したこともあり、工事の変更を願い出しましたが、「そのような心配はない」との報告書がだされました。

※明治29年9月の庄内川の洪水では、高蔵寺、勝川で堤防が破堤して、赤痢が大流行しました。

しかし、「このままでは昨年の堤防決壊以上の惨状となることは目に見えているので、再度工事の変更をお願いしたい。」というもので、これに対する返答はなく、工事は明治31年5月にほぼ終了しています。(郷土誌かすがい第80号から)



(図3) 庄内川鉄橋架設請願の一部
(春日井教育委員会所蔵)

その後、数回にわたりこの辺りで洪水被害が起きていますが、昭和 32 年の春日井大豪雨(8月7日～8日)では未曾有の大被害となりました。

長塚町、勝川町冠水、松河戸橋大破、勝川橋梁も橋脚の一部が壊れ、半年間中央線不通となっています。堤防破壊が起こったのもこの勝川橋梁の橋脚の多さ(流れを妨げる橋脚の面積)が原因ともいわれています。(図 5)



(図 4) 竜泉寺から庄内川・松河戸方面を望む(昭和 8 年頃)
・奥に見える橋は、明治 31 年に架橋された中央線(西線)の鉄道橋
橋梁の橋脚が多くあることが確認できる。
・手前の橋は、本流のみに架橋された橋で、本格的な木造橋ができる
のは昭和 13 年になる。



(図 5) 昭和 32 年の春日井大豪雨
水に浸かっているのが長塚町、勝川町あたり
向こうに見える橋が勝川橋、中央線、地藏川の輪郭
も見える。
地藏川のバックウオーター現象が起こった。

複線電化に伴う庄内川橋梁工事 昭和 37 年 11 月～40 年 12 月

昭和 33 年には、中央線名古屋～大曾根間の複線電化工事が着工され、庄内川橋梁については、旧橋梁の上流側に現在の橋梁が建設されました。(図 6)

そして、昭和 41 年 5 月 14 日に名古屋～多治見間の複線電化が完成しました

庄内川橋梁の橋脚については 17 基から 7 基と少なくなりましたが、旧橋脚の土台部分は新橋梁の橋脚下の床土が流出しないようにとの理由で残されました。

明治 30 年 3 月に出された請願書は、「17 基の多くの橋脚は庄内川の流れに障害となる」との理由でしたが、旧橋梁の基礎部はそのまま残され、現在見られるコンクリート塊となっています。

また、その堤防下の新橋台については複線電化工事の際、県道 162 号線(松河戸西枇杷島線)の道を広げられるよう堤防治いに後退させ歩道幅を確保されましたが、旧橋台は撤去されずそのまま残されました。

当時の道路幅はこれでもよかったかもしれませんが、今では交通量も多くなり歩道も確保できず、歩行者の通行の妨げとなっています。(図 7)

次回コラムNo.7 では、このそのまま残された旧勝川架道橋の橋台について調べてみます。



(図 6) 庄内川橋梁 複線化工事(写真昭和 40 年)
・奥(下流側)が旧橋梁で橋脚が 17 基ある。
・手前(上流側)に新しい橋梁を建設中、
橋脚が強固な 7 基となる



(図 7) 歩行の障害となっている旧橋台
奥の旧橋台はそのまま残され、歩道を塞いでいる。
歩道がなくて危険である。
手前が新橋台で、歩道が確保されている。